

私がなぜ現在の科目を選んだか

「泌尿器科」

信州大学医学部泌尿器科学教室

井上 貴 浩

初めて泌尿器科と関わったのは、信州大学4年生の頃の自主研究の時でした。自主研究とはそれぞれ指定された科で1か月間基礎研究に触れ、指導頂くというものです。その際にラットの冷ストレスによる頻尿についての研究に携わらせて頂きました。研究も非常に楽しくさらに医局の方々の絶妙な距離感に居心地の良さを感じたことを未だに覚えています。そこから時を経て、初期研修医となった私は外科系に行きたいと漠然と考えてはいましたが、研修する科すべてが自分にはハードルが高く感じていました。また特定の疾患分野に興味を持つこともできずにいました。こういった状況でも専門科をきめなければならない刻は近づき、

相談したのは部活の先輩でした。恥ずかしながらこの時に頂いた「ウロでいいんじゃない」が私が泌尿器科を選んだ理由です。おそらく他の多くの先生方は自分の興味、理想、またはQOL等で専門科を決めるのでしょうが私は知己の意見を頼りに科を決めました。医業を辞めようかと思うことも数回はあったものの超克できたのは、医局の多様性を受け入れる雰囲気と医療への高い士気にも助けられたこともあります。悩みを打ち明けることのできる知己がいたからに他なりません。多くの助けがあり現在も泌尿器科を曲がりなりにも続けています。業績や医師としての出来は置いといて。医師となる方々は高い志を持っていて、私の様に全ての科が無理に感じる者は少数とは思いますが。そんな少数の科が決まらない人が本文を読んでいるかは分かりませんが、決まらない時は先輩、友人等の繋がりのある科を選ぶことも良いかも知れません。

(信大平27年卒)

私がなぜ現在の科目を選んだか

「整形外科」

信州大学医学部運動機能学教室

小 山 傑

学生時代、私は漠然と小児科や内科の医師を志していましたが、その進路を大きく変えたのは、医学部5年生のポリクリで最初に回った整形外科でした。初めての手術見学や手洗いなど、すべてが新鮮な体験の中で、バラバラに折れた骨が整復・固定されていく様子や、壊れた関節が人工関節に置き換えられる場面に強く惹かれたことを今でも鮮明に覚えています。術後のレントゲンで手術の成果がすぐに確認できる点にも、自分の性格に合った魅力を感じました。もともとプラモデル作りなどの細かい作業が好きだったことも、整形外科に対する適性を感じた理由の一つです。また、

病棟の明るい雰囲気も印象に残っています。患者さんは皆前向きで、回診中には「こんなに歩けるようになった」「痛みがなくなった」「もっと早く手術すればよかった」といった声が多く聞かれました。整形外科は、患者さんの生活の質を劇的に改善できる分野であると実感し、大きな魅力を感じました。

その後の学生実習や初期研修を通じて整形外科への志はさらに強まり、2009年に信州大学整形外科に入局しました。整形外科医として15年が経過した現在、私は大学病院の下肢班に所属し、当時憧れていた人工関節置換術や骨切り術を自ら執刀できるようになりました。自分が担当した患者さんから「本当に手術を受けてよかった」と言っていただけの瞬間が、何よりのやりがいです。

今後、学生さんや初期研修医の先生方と共に学び、働けることを楽しみにしています。ぜひ一度、信州大学整形外科を訪れてみてください。(信大平19年卒)